大火砕流に襲われた大野木場小

9月15日，第3溶岩ドームの北東部が大崩壊し，大火砕流が発生。高温，高速の灰混じりの爆風は，校舎の窓ガラスを溶かし，破壊した。周辺の人家も焼け落ちた　（H 3 年 9 月17日）

赤茶く焦げ無残な跡をさらす教室内部（火砕流から4カ月たった H 4 年 1 月17日の大野木場小学校）

大火砕流に襲われた大野木場小

現在，小学校は移転して，跡地は災害遺構として保存されているらしい．被災直後の写真は『写真・記録集 改訂版 鳴動普賢岳』から転載させて頂いた．また左の写真はグーグルアースによる．

噴火災害の7年後に現地訪問

1998年9月に福岡で開催された建築学会年次大会の後に初めて噴火災害後の島原地区を訪問する機会があった．
諫早から島原鉄道を利用して，巨大な水門で閉じられた諫早湾干拓地を見ながら被災地に入った．
水無川上流では無人運転の重機が働いており，かつての住宅地には火砕流の火山灰が厚く堆積していた．水無川下流域では土石流の痕跡が見られた．

水無川上流域では無人運転の重機が黙々と作業をしていた．

水無川中流域の火砕流を受けた住宅地には火山灰が厚く堆積していた．

水無川下流域には防災工事後も土石流堆積物が蓄積していた．

火砕流と土石流を免れた住宅地を歩いて

土嚢を積んで土石流を防ごうとする民家

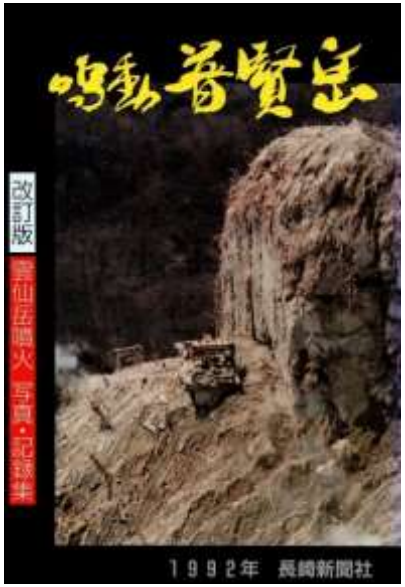
民家の山側に設置された防災用の石塀

砂防ダムの間際にまで密集する民家

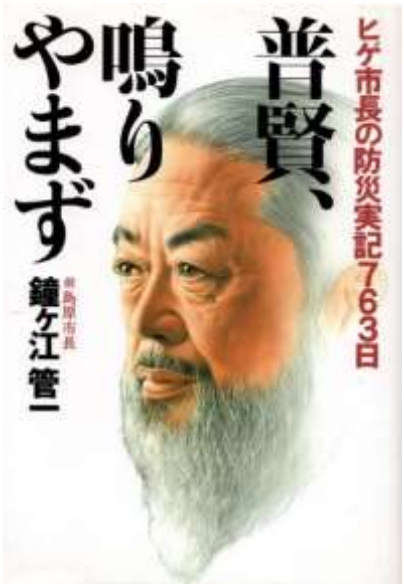
早くも公園に設置された普賢岳噴火災害の光景を記録するプレート

普賢岳噴火災害に関する刊行物

写真・記録集 鳴動普賢岳 1991年，長崎新聞社，1991.8.8.



写真・記録集 改訂版 鳴動普賢岳 1992年，長崎新聞社，1992.8.1.



鐘ヶ江管一：普賢、鳴りやまず，集英社，1993.9.25.

広報しまばら 雲仙・普賢岳噴火災害特集号，長崎県島原市，1992.1.17.

広報しまばら2 雲仙・普賢岳噴火災害特集号，長崎県島原市，1994.3.1.

下鶴大輔：火山のはなし－災害軽減に向けて－，朝倉書店，2000.7.10.

下鶴大輔監修，火山防災用語研究会編：火山に強くなる本，山と渓谷社，2003.7.10.

眉山の大崩壊によって発生した津波におそわれた人々　島原側の被害はもちろん　対岸の肥後（熊本県）側も津波におそわれ　死者合わせて約1万5千人の大惨事となった（島原市図書館）

寛政4(1792)年大噴火の記録

普賢岳噴火　溶岩流の発生　その2カ月後に起きた"島原大変"を伝える

寛政四（一七九二）年、旧暦四月一日、普賢岳の前にそびえる眉山の東側山体の約三分の一が突如として大崩壊した。これが日本の火山災害史上最悪の惨事となった、後にいう「島原大変」である。

この大崩壊の前触れとして、前年の秋からの群発地震、明けて一月十八日から始まった普賢岳の四つの火口からの噴火、新焼溶岩流の発生という異変があったことを古文書や絵図が記している。

島原大変図　地獄跡火口から北東約1.5kmの記録像から流出した溶岩　ゆっくりした溶岩流だったので見物人が殺到したと記されている（島原市図書館）

島原大変
肥後迷惑

1792年の普賢岳噴火に伴って，その後に発生した大事件"島原大変"とは？

詳しくは下記の文献を参照願いたい！

白石一郎：島原大変，文春文庫，1989.2.10.